

スウィングバンド Kobo Evergreen's

児童養護施設を利用する子ども達に、何か一つでも心の支えや誇りに思えることを身につけ、経験させたいと考え、『Kobo Evergreen's』のバンド活動を始めた。地域の中ではこの20数年間様々な場で演奏をしており、老人ホームでの慰問演奏、葉山町のお祭り『ふるさとひろば』での演奏等、地域の方に喜んでいただける演奏を数多く行ってきた。加えて、多くの人たちから拍手を受けることが、子どもたちに大きな自信をもたらしている。

社会福祉法人 **幸保園** 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色932
TEL : 046-875-1268 / FAX : 046-875-2947

◆ 法人の概要

法人設立年：昭和49年（児童養護施設は昭和27年創立）

経営施設、事業（数）：1施設

経営施設、事業（種別）：

児童養護施設…1施設

◆ 法人の理念・経営方針

創立以来、キリスト教の教えの元、子どもにとって今なにが最も大切かを考え、日々の処遇を行っている。その目標は、児童の権利を守ること、児童の社会における自立である。

- 子どもたちは、基本的人権を尊重され、あらゆる暴力を排除した中で、安定した生活を送る。
- 子どもたちは、自分の言動に責任を持ち、義務と責任を持ち、義務と責任を学ぶ。
- 子どもたちは、自分を取り巻くすべての人に感謝し、思いやりの心を持つ。

◆ 実施施設の概要

施設名：幸保愛児園

施設種別：児童養護施設 定員50名
地域小規模児童養護施設
定員6名

活動開始年：昭和58年4月

活動の頻度・時間：練習は週に1回、演奏は
年に5回程度

活動の対象者：利用者と職員 計25名

活動実施の背景、実施にいたった理由

児童養護施設を利用する子ども達は、親と一緒に暮らせないという心の悲しみを持っている。このような子ども達に何か一つでも心の支えや誇りに思えることを身につけ、経験させたいと考え、この『Kobo Evergreen's』のバンド活動を始めた。きっかけは、中学校の部活動で吹奏楽部に入りたいと言った子どもが、楽器がないと入れないと言われ、園長が中古のトランペットを見つけてプレゼントした時にとっても喜んだのを見て、施設におけるバンド活動を思いついた。

最初は楽器もなかったが、トランペット、アルト・テナー・バリトンサキソフォン、ドラム、ベース、キーボードと少しずつ揃えていき、スウィング・バンドの形ができた。子ども達は、始めは音符も読めず楽器も使えない状態であったが、諦めずに練習を続けた結果、現在は総勢25名のスウィング・バンドに成長した。

実施内容

指導者に元自衛隊音楽隊の小山先生を迎え、週一回のバンド練習を行っている。小山先生は当園の苦情解決委員の任も負っている。

これまでにロサンゼルスでの公演、日本にある各国大使公邸での演奏、横須賀米軍基地での演奏等を行い、国際交流にも役立っていると言える。東京での児童福祉施設文化祭では、皇太子妃殿下雅子様にもお言葉を頂き、子ども達にとっては忘れられない思い出になった。そして、毎年恒例の『幸保愛児園 クリスマスの集い』では、葉山町福祉文化会館ホールにて500人の観客の前で演奏し、子どもたちの自信と励みになっている。また、その他の演奏の機会として、施設間の発表の場である『あすなろ交歓会』、老人ホームでの慰問演奏、葉山町のお祭り『ふるさとひろば』、『葉桜ふるさとまつり』、地域のライオンズクラブ、ロータリークラブが関わる演奏会、『人権文化コンサート』、『社会を明るくする運動』、『テレビ朝日福祉文化事業団創立30周年記念コンサート』など、演奏

の場を広げてきている。

活動効果

施設を利用する子ども達は、様々な行事に招待される。感謝すべきことであるが、子ども達はいつも受け手である。しかし、子どもたちにとってはそれだけではいけないと考える。家族の元での子ども達の置かれた状況は厳しいものであるが、子ども達には自分達が人に何かを与えることができるという経験が必要である。このバンド活動によって、子ども達は人から与えられるだけでなく、人に演奏をプレゼントするという経験できるのである。人に与えることの喜びを経験することで、人間的な成長を促している。また、楽器が演奏できること、多くの人たちから拍手を受けることは、子どもたちに大きな自信をもたらしている。

週一回の練習は、子ども達にとって楽しいものとは言えないが、一つのことを成し遂げるためには苦しいことも乗り越えなければならないことを学習している。さらに、一つの曲を作り上げるために、子ども達、職員が皆で一つになることにより、施設としてのまとまりもできてきている。

地域の中ではこの20数年間、様々な演奏会に出演し、地域の方に喜んでいただけているため、幸保愛児園のバンド活動は周知されてきている。施設を理解してもらう良い機会にもなっている。

今後の課題

施設に入所する子ども達は、周知の通り虐待の子ども達が多く、今までよりも対応が難しくなっている。小学生高学年から思春期という難しい時期の教育の一環として、今後ともバンド活動を続けていきたい。

また、地域の行事に積極的に参加することにより、施設の存在を認識していただくとともに、これからも地域貢献を長く継続していきたい。

